

# “健康麻雀”で楽しい交流

## ボランティア最前線



## 東灘区会

麻雀に熱中するお年寄りⅡ写真⑤  
囲碁の相手をする富永さんⅡ写真⑥

「ロン！ハイ満貫」「えっ！しもたっ」パイを混ぜる音がにぎやかです。ここは、東灘区にある特別養護老人ホーム「ロングステージ御影」（定員70人）。9月9日の昼下がり、東灘区会がやっている珍しい「麻雀ボランティア」（長谷川博代表・生9）の活動ぶりを取材しました。

3階居室前のロビー奥のテーブルには、女性2人（99歳・80代）男性1人（99歳）が、スタンバイ。「こんな超高齢者が」とまぎびっくりです。スタッフは、長谷川さんと、入谷清弘（食5）、白岩信義（国7）、原田静雄（国7）さんの4人。きょうの参加は3人なので、スタッフの1人がメンバーに入ります。

「さあ、始めましょうか」。パイを混ぜたり、並べたりはスタッフが手伝いますが、パイを並べ終えたら3人とも自分で手の内を考え、役を作ってゲームを進めます。相手の表情を読んだり、捨てパイを観察したり…。パイの揃い具合を見計らってチャンスとみたらリーチをかけます。ゲームに熱中するとぼやぼやしている暇はありません。

「ロンだよ」。傍らのスタッフの声に、上がったことに気づいた99歳のお爺ちゃん。思わず「おーっ！」との歓声が…。「おめでとう」と声をかけると、満面の笑顔が返ってきました。だれかが、一人勝ちすることもなく、おしゃべりをしながら和気あいの2時間。点数計算はスタッフがしますが、各自で

パイを片付けてゲームは終了。「入所者の感想はいかがですか」と職員に聞くと、「長年続けて下さり、助かっています。みんな、健康にいいと、楽しみに待っているのですよ」。

区社協の依頼により麻雀ボランティアを始めたのは2010年5月から。99歳のお二人はその時からのメンバーです。「当初は、スタッフの手を借りて進んでいたゲームも、半年位すると自分たちでやれるようになり、表情に喜怒哀楽が出てきた。生きがいになっているようです」と長谷川さんも嬉しそうです。

## 囲碁・将棋・畑づくりも

2階の居室では、富永征児（園7）さんが、94歳の男性と囲碁で対戦中。将棋の相手もしています。富永さんはそれに、園芸OBの強みを生かして、屋上菜園で野菜づくりもやっています。「いちご、スイカ、南瓜…今夏は特別の猛暑で水やりにも追われたが、皆さんの喜ぶ顔を励みに頑張っている」といいます。東灘区会は会員90人程ですが、麻雀のほか、喫茶支援、書道、歌の友愛訪問、学習支援など幅広いボランティア活動をしています。

**取材を終えて** 麻雀といえば、賭け事というイメージを持っていましたが、4人でおしゃべりしながら、頭も手先も使うゲームなので、高齢者の健康維持にぴったり。他の施設や老人クラブでもはっていると聞いて、納得しました。

（取材：井口久美子・写真：木村成男）